投資家向け説明会

平成２９年６月

日産車体株式会社

1. ご挨拶	それでは、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業報告の内容、連結計算書類の内容につきましてご報告を申し上げます。
2. 企業集団の現況	まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過及びその成果につきましてご説明を申し上げます。 当連結会計年度のわが国経済は、経済政策及び金融緩和等の効果が継続したことにより、緩やかな回復傾向で推移したものの、為替相場や株価の変動、中国を始めとするアジア新興国の景気下振れが懸念されるなど、先行き不透明な状態が続きました。
売　上 ① 乗用車	このような経済情勢の下、当社が日産自動車株式会社から受注しております乗用車は、北米向け「クエスト」、輸出向け「パトロール（Y61）」等の減少があるものの、昨年6月より生産を開始した北米向け「アルマーダ」の増加などにより、前期に比べ、売上台数は、17.2％増の12万0千272台、売上高は、23.3％増の、3千655億円となりました。
② 商用車	商用車は、輸出向け「パトロールピックアップ」の減少などにより、前期に比べ、売上台数は、横ばいの8万6千729台、売上高は、3.2％減の1千259億円となりました。
③ 小型バス	小型バスは、「シビリアン」の減少などにより、前期に比べ、売上台数は、6.3％減の2万3千330台、売上高は、11.2％減の447億円となりました。
④ 総売上高	以上の結果、前期に比べ自動車の総売上台数は、7.8％増の23万0千331台となり、自動車部分品などを加えた総売上高は、11.1％増の5千658億円となりました。
⑤ 品目別	この売上高を品目別に見てみますと、乗用車が64.6％、商用車が22.3％、小型バスが7.9％、そして、自動車部分品等が5.2％となりました。
損　益	次に、損益面でございますが、売上台数の増加などにより、前期に比べ、営業利益は、6.2％増の121億円、経常利益は、6.2％増の127億円となりました。 また、親会社株主に帰属する当期純利益は、退職特別加算金10億円の特別損失計上や平成28年度税制改正の影響などにより、前期に比べ3.6％増の82億円となりました。

資金調達	次に、当期の資金調達の状況についてでございますが、特記すべき事項はございません。
設備投資	続きまして、当期の設備投資の状況につきましてご報告致します。 設備投資の総額は約97億円で、主に、新商品、マイナーチェンジによる商品力強化と、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。
連結計算書類 ① 連結貸借対照表概要	次に、連結計算書類でございますが、まず平成29年3月31日現在の、連結貸借対照表の概要につきましてご説明を申し上げます。 資産の部合計は、2千944億円となりました。 その内訳は、流動資産が2千369億円、固定資産が574億円で、319億円の増加となりました。 一方、負債の部合計は、1千150億円となりました。その内訳は、流動負債が1千005億円、固定負債が145億円で、前期末に比べ、225億円の増加となりました。 また、純資産の部合計は、1千793億円となりました。その内訳は、株主資本が1千818億円、その他の包括利益累計額がマイナス24億円で、前期末に比べ、94億円の増加となりました。
② 連結損益計算書概要	次に、第94期の連結損益計算書の概要につきまして、ご説明を申し上げます。 先ほど申し上げました、当社と連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、127億円となりました。 また、特別損失は、退職特別加算金等、13億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純利益は、82億円となりました。
3. 主要課題への取り組み 2011-2016中期経営計画の振り返り	続きまして、主要課題への取り組み状況についてご報告致します。 初めに、これまで6年間取り組んでまいりました2011-16中期経営計画の振り返りについてご報告致します。 2011－16中計において、当社は、“グローバルでお客様を創造する”という基本方針の下、新工場の基盤固めや、湘南の再編を軸とした競争力強化、更には、海外業務の拡大、生産台数の勝上げで、受け身から積極拡大へと大きな転換を図ってまいりました。

日産車体九州 (1/2)	それぞれ4つの柱について振り返りますと、日産車体九州では、新工場の稼働から相次ぐ新車立ち上げを経て、昨年下期からの3班3交替への移行など、過去に経験のない大きな課題に取り組んでまいりました。
日産車体九州 (2/2)	そして、そうした中においても、日産高級車ブランドである、インフィニティ生産工場としての認定取得や、JDパワー社による北米の市場初期品質調査においても、トップクラス入りなど品質面で高い評価を頂きました。 また、大幅な為替変動の中でのコスト競争力の確保や、3班3交替の確実な生産運営など、グローバル生産拠点の中で、確固たるプレゼンスを築くことができました。
湘南工場(1/2)	湘南工場では、車両生産の現地化が進む中、工場の再編を柱とした収益力の強化に取り組んでまいりました。
湘南工場(2/2)	その結果、湘南工場が持続するための条件である製造コストの低減目標を達成し、主力車種であるNV150　ADの次世代化を実現したほか、日産圏の初期品質グローバルランキングでトップクラスを定着させ、2度のプラントオブザイヤーにも輝きました。更には、フレーム車の混流や特装車をはじめ、LCV、すなわち小型商用車への多様なニーズにも、フレキシブルに対応できる生産プロセスの確立など、全社一体のモノづくりで、湘南工場の存在感を高めることができました。
海外展開 事業(1/2)	海外展開事業の基盤強化では、モノづくりのグローバル化に対処すべく、海外プロジェクトの開発から生産準備業務を積極的に拡大してまいりました。
海外展開 事業(2/2)	そして、海外で活躍するための資格認定を軸に、教育と実践の両面から海外対応力の強化に取り組み、海外プロジェクトを確実に遂行する体制を確立したほか、LCVグローバル技術情報センターの開設や、海外拠点への品質・原価の改善支援など、様々な活動を通じて、海外拠点からの信頼を高めることができました。 現在19名がグローバル日産拠点で、現地メンバーとともに業務を遂行しております。
生産台数と売上の 積極的拡大(1/2)	生産台数と売上の積極的拡大では、お客様との直接対話と市場調査を軸に、タイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援で、LCVの多様なニーズに応える独自の活動を進めてまいりました。

生産台数と売上の積極的拡大(2/2)	その結果、パトロールピックアップの商品力強化の取り組みなどにより、50億円規模であったコンバージョン売上を4倍に拡大するなど、多くの具体的成果を上げることができました。 こうした当社独自の取り組みに対して、日産の企画部門をはじめ、中東や国内の営業部門からの期待も高まってきております。
2011-16 中期経営計画	以上、2011年度からの中期経営計画が、2016年度末をもって完遂し、所期に掲げた目標を達成できましたことをご報告させて頂きます。
取巻く環境	次に、当社を取り巻く環境と課題についてご説明させていただきます。
① 自動車需要	まずは、世界の自動車需要動向でございますが、国内及び欧米等の先進国地域は、現状維持、あるいは堅実な推移となっております。 一方、中国を中心とした新興国地域が牽引するかたちで、世界全体としては、今後も成長が予測されております。
② 生産台数推移	こちらは、直近9年間の当社における生産台数実績と、今後の見込みを示したものでございます。2008年のリーマンショック以降、減産が続いておりましたが、「積極的な生産台数の勝ち上げ活動」等の成果もあって、2012年を境に、増産に転じております。今年2017年度も、昨年度以上の生産台数を計画しております。今後も、高級SUVや、大型ピックアップトラックなどの、フレーム車の需要が好調に推移していくものと想定されます。
③ 技術革新	次に、技術面についてですが、今後は、安全、環境、利便性などへの技術革新が一層加速してまいります。 そうした次世代技術へ当社の生産車も遅れをとることなく、タイムリーに対応していく必要がございます。
④ ライフサイクル	さらに、次の中期経営計画の期間中に、当社生産車の多くが、長いライフサイクルにおけるモデルチェンジ時期を迎え、パワートレインの次世代化や先進技術への対応などが、喫緊の課題となってまいります。
⑤ アライアンス	更には、三菱自動車を加えたアライアンスが拡大し、そのシナジーをどう発揮して行くかについても、既に検討が始まっておりますが、そうした中で、当社が引き続き日産圏で役割を果たして行くためには、当社の強みであるモノづくり一貫体制を更に磨いて行くと同時に、グローバルで必要とされる明確なコア技術を確立して行くことが、一層重要な課題となってまいります。

新中期経営計画	それでは、こうした取り巻く環境に対応していく新しい中期経営計画についてご説明致します。
基本方針 と目標	こちらが新しい中期経営計画の基本方針と、全社目標でございます。 次の中期経営計画では、2022年までの6か年を見据え、3つの競争力、すなわち、商品、工場、技術･技能の競争力で、将来にわたる強靭な企業基盤の確立を目指してまいります。
基本方針	はじめに、基本方針でございますが、「LCV・Frame車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客様にお届けすることで、将来にわたる、強靭な企業基盤を確立する」これを基本方針とし、今後6年間取り組んでまいります。 続いて、それらの実現に向けた3つの競争力について、ご説明致します。
商品の競争力	一つ目は、商品の競争力、すなわち「魅力ある商品による生産台数と売上の拡大」です。 目指す姿は、日産車体九州でのフル生産の継続と、湘南工場の台数拡大です。
① 生産台数の拡大	ここでは、生産台数の勝ち上げと、特装事業の更なる拡大を図り、この勢いを確実に持続させてまいります。 お客様とのダイレクトコミュニケーションにより、市場ニーズを的確に捉え、お客様に買っていただく商品の提案を継続するとともに、現在好調な北米アルマーダ、インフィニティQX80などについても、さらなる魅力性能創造と、高級車にふさわしい品質向上に取り組むことで、2017年度以降も台数勝ち上げにつなげてまいります。
② NV350 キャラバンマイナーチェンジ	ここで、この夏、発表発売予定のNV350キャラバンのマイナーチェンジについて、ご紹介させて頂きます。 今回のマイナーチェンジでは、新世代のVモーショングリル採用に加え、LCVにとっても、利便性、安全性が向上するアイテムが採用されます。
工場の競争力	引き続き、二つ目の競争力についてご説明致します。 二つ目は、工場の競争力として、「品質No1お客様から信頼される工場」を目指します。 従来の中期経営計画では、日産車体九州と湘南工場は、異なる環境の

	中で、それぞれの課題に取り組んでまいりましたが、次のステップでは、九州と、湘南一本化することでそれぞれの強みや、優れた仕事のやり方を共有し、日産車体独自の強みを確立してまいります。
① 品質 No1	特に、「品質No１」は、共通の目標と位置付けております。品質は、コスト、納期、お客様からの信頼、すべてに通じる根源であります。買って頂くお客様はもとより、すべてのお客様への信頼を高めることで、揺るぎないグローバル競争力の達成を目指してまいります。
② 初期品質	2016年度、日産圏国内の市場初期品質におきまして、当社のNV200バネットと、NV350キャラバンが同スコアでランキング１位を獲得致しました。 これは、取引先の皆様をはじめ、日産車体グループが一体となった品質改善活動を愚直に継続してきた成果と受け止めております。
③ 新型アルマーダ	また、新型アルマーダにおきましては、お客様ニーズや期待値に応え、満足して頂く車とするため、徹底的に市場検証を行い、さらに、生産準備期間には、開発・技術・製造・品証一体となった、品質保証体制を敷き、漏れのない品質確認を行い、北米に出荷致しました。 結果、これまでの日産他車実績を大きく上回る、新車品質を実現することができました。 おかげさまで、アルマーダは、発表発売以降、北米のお客様から高い評価を頂き、日産車体九州の生産能力を上回る、増産要望を頂戴しております。 3班3交代勤務でも不足する要望台数につきまして、ここ湘南工場で生産することを決定致しました。現在、2017年度下期より並行生産できる様、設備の新設・改造並びに 新規雇用などの準備を急ピッチで進めております。尚、生産体制は、現在の昼勤のみから昼夜2交代勤務とします。
JDP-IQS1位	さて、ここで先週、当社にとりまして大変うれしいニュースが入りましたので、ご報告させていただきます。 当社、インフィニティQX80が、北米JDパワー社による市場初期品質調査の結果、ビッグ３ ベンツ、レクサスなど強豪ひしめくこのセグメントにおきまして、ランキング１位を獲得いたしました。これは、2014年、2015年に続く受賞となります。 今後も魅力ある商品を創造し、すべてのお客様から信頼される工場の実現を目指してまいります。

技術･技能の 競争力	三つ目は、技術・技能の競争力です。これは、当社生産車の次世代化に確実に対応できる技術の確立を目指していくものです。
LCV・フレーム車グローバル 拠点	”LCVは日産車体に任せたい”をスローガンとしたこれまでの取り組みに、当社にとって今後さらに重要な位置づけと捉えているフレーム車の開発、生産技術を加え、2022年までに「LCV・Frame車のモノづくりグローバル技術拠点」となることを目指してまいります。 そのために、次世代化を見据え、各年度に各新商品へ織り込むべき新技術や、新工法・プロセスをあらかじめ明確にし、開発・生産部門が一体となってLCVとフレーム車のコア技術・技能の強化に取り組んでまいります。
全ての活動を支える基盤 ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨの推進	最後に、“全ての活動を支える基盤”について、ご説明致します。 ここでは、主に、ダイバーシティの推進に取り組んでまいります。 今年、日産車体九州において、新入社員を 40 名採用致しましたが、そのうち、11 名の女性社員にライン作業者として、活躍してもらうことになっております。現在、一日も早く成長し、活躍できるように各職場において、教育、サポートを実行しております。 新しい中計のスタート年度をきっかけに、ダイバーシティの取り組みをさらに加速させ、女性が活躍できる職場作りを目指してまいります。また、全ての従業員がさらに働きやすく、活躍できる場を目指して、ワークライフバランスの適正化や育児、介護との両立が可能な環境整備など、さまざまな課題に取り組んでまいります。
新中期経営計画	以上、新しい中期経営計画の基本方針と、主要課題への取り組みについて、ご説明させて頂きました。
主要課題への取り組み	主要課題への取り組みのご説明は以上でありますが、これら3つの重点課題を柱に、将来に渡る強靭な企業基盤の確立を、全社一体で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。 以上、事業報告の内容、連結計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。
4. 平成 29 年度の業績見込み	ここで、平成29年度の当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせて頂きます。

	まず、当社の平成29年度の売上高は、6千700億円を見込んでおります。 また、営業利益、経常利益は、それぞれ140億円、145億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する当期純利益は、96億円を見込んでおります。 以上が、平成29年度の業績見込みでございます。
5. 配当について	なお、配当につきましては、安定した配当を継続的に行うという配当方針に基づき、当事業年度の年間配当は、2円増配の13円となります。 また、平成29年度につきましても同様に、年間13円を継続する予定でございます。
6. 閉会挨拶	皆様におかれましては、従来にも増したご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。